

MMD 療法のコツ！ :No.2 モメタオティック®の塗布

前回から3回に渡り日本獣医生命科学大学附属動物医療センターでMMD療法を担当している動物看護師から治療法の具体的な手技の解説を致します。

MMD療法とは、慢性増殖性皮膚炎を対象とした治療法です。その手順は次の通りです。

1	準備	皮疹部の剃毛をおこなう
2	ステロイドの塗布	剃毛部にモメタオティックの塗布
3	外用剤の浸透	3時間の付けおき
4	洗落としと薬浴	外用剤を洗い流し、マラセブシャンプー薬浴
5	シャンプー後のドライ	タオルドライ、ドライヤーによるブロー
6	保湿	ダームワンで皮疹部（剃毛部）に塗布

今回は「2、剃毛部にモメタオティック®をまんべんなく塗布し3時間付けたままにする」についてご紹介致します。

力価の高いステロイド外用剤である、モメタオティック®の塗布は、掻き続けて分厚くなった皮膚の厚みを軽減することが目的です。

薄く伸ばして塗るというより、「ベッタリ」と厚めに塗ることがポイントになります！

ポイント！剃毛することで、被毛にモメタオティック®が消費されないので、モメタオティック®の量を節約することができます。一例を挙げますと、剃毛前の使用量45gが剃毛後27gに減りました。

実際にモメタオティック®の塗布のポイントを写真でご紹介致します。



モメタオティック®

塗布前

バリカンで剃毛し終えたところです。

剃毛部にしっかりとモメタオティック®を塗っていきましょう。



使用量の 計量

ラップを敷いた秤で、モメ
タオティック®の分量を計
測しながら塗布を行います。
5～10g 単位で分量を増や
して行き、過剰に使用する



塗付量： 厚塗いで

「てかり」が見えるくらい
厚めに！



顎下から 首の腹側 まで

顎の下から、顔など、普段か
らケアが難しいところにも
しっかりと塗りましょう。



四肢端部
足先の
手背部
手掌部



剃毛された肢先は、皺がしっかりと見えます。
この隙間や指の間、パットの間にもしっかりと塗りこみましょう。

体幹部
腹側～側腹まで



体幹部は MMD の効果が早く現れるので、皮疹がある所はできる限り剃毛し、モメタオティック®をしっかりと塗布しましょう。効果が目に見えて、オーナー様に喜ばれます。

耳介



耳介の内側は典型的な罹患部です。ついつい忘れてしまい易いですが、しっかりと塗りましょう。

尾根部 肛門 外陰部



尾根部や肛門周囲、外陰部は、皮疹のひどいことが、多いです。見落とさないようにしましょう。



塗付完了！

この状態で、薬浴まで3時間以上待ちます。
待機している間に患者が掻きむしることがないように、
必要であればカラーの装着、腹帯の着用をして管理をしてください。
次回は、薬浴のポイントについてご紹介致します。